

令和5年度 学校だより9月号から

百聞は一見に如かず

長い夏休みも終わり、子どもたちの活気ある声とともに学校生活がスタートしました。長く停滞した台風の影響を受けたかと思えば、厳しい暑さが続くなど天候に悩まされる夏休みでした。それぞれの夏休み、ご家庭での子どもたちの様子はいかがでしたでしょうか。これから、前期後半がスタートします。様々なことに積極的にチャレンジして経験を通して大きく成長して欲しいと思います。

さて、「百聞は一見に如かず」ということわざを、多くの人がこれまで何度も聞いたことがあると思います。あらためて説明する必要もないと思いますが、「百聞は一見に如かず」ということわざの意味は、「人から百回話を聞くよりも、一度自分の目で見て確かめる方が良い」という意味です。

実は、この言葉には、続きがあることをご存じでしょうか。「百聞は一見に如かず」ということわざには、次のような続きがあります。「百見は一考に如かず」これは、「百回見るより、一回自分で考えることのほうが大切である」という意味です。続いて、「百考は一行に如かず」この言葉は、「百回考えるより、一回自分で行動することのほうが大切である」という意味です。この後にも、「百行は一果に如かず」「百果は一幸に如かず」「百幸は一皇に如かず」といったようにどんどん続いていきます。これらは、一つのまとまりとして考えることで、大きな意味があると私は思います。

私自身、考えすぎる節があり、行動や実践に移すことがとても苦手でした。もちろん、考えることも大事ですが、失敗を怖がり考えすぎることによって行動ができなくなってしまうのでは本末転倒です。考えることも、行動や実践に移すことも、勇気を出して踏み出してみればできることです。失敗を怖がって行動しなければ、何の成長につながりません。たとえ失敗したとしてもそれも一つの成長につながると私は考えます。考えたり行動や実践に移したりする方が多くの気づきが得られるということです。大切なことは、一歩を踏み出すということであり、最初の一歩が動き出せば、一つの経験となり、成果となり、自分の成長につながります。そして、行動に移さず、実際に経験しないで調べたことを話すだけでは言葉の信ぴょう性が低くなってしまいます。自ら考え、行動に移し、経験することで自信が生まれ、自分の言葉に説得力が増してきます。

「百聞は一見に如かず」の続きの部分では、聞く、見る、だけでなくそれを何のためにやるのかというところまで言われています。当たり前のことのように思えますが実際には、聞いただけで分かったような気になる、見ただけで出来そうな気になる、考えるだけでやった気になる、行動しただけで満足して結果が出ていない、こういったことをやってしまいがちなので百聞は一見に如かずの続きの部分はとても大事なことだと思います。この言葉は、スポーツだけでなく、勉強、学校生活など様々な場面においても役に立つ言葉だと思います。どんなことでも「どんな成果を出したいか」これを意識しているだけでも大きく行動が変わります。子どもたちには、これから先、考えるだけでなく、実際に行動に移し、多くの経験を通して、自分の言動に自信をもって大きな成長につなげて欲しいです。

(副校長 栗原 憲一)

三浦宿泊体験学習 5年生

7月7日、8日で宿泊体験学習に行きました。2日とも天気にも恵まれ、三浦の海はきらきらと光り、とてもきれいでした。宿泊体験学習も2回目。自分のことは自分で。困っていることはみんなです。2日間楽しんで過ごせるように協力して過ごそうと頑張っていました。

1 日目

行きのバスではバスレク担当の人が準備したレクをみんなで楽しみました。午後からは海で貝殻を拾ったり、シーカヤックに乗ったりしました。「こんなに海で遊んだのは生まれて初めて!」「思ったよりも遠くまでシーカヤックで進んで、疲れたけど気持ちがよかった!」と、強い日差しの中でしたが潮風も心地よく、みんな時間を忘れて楽しんでいました。

2 日目

朝ご飯をいっぱい食べ、荷物の整理は自分で頑張りました。午後は、水着に着替えて、磯遊びを楽しみました。くらげにヒトデに、ウミウシも…。触ったことのない海の生き物とたくさん触れ合うことができました。体験を通して海についての学びを深めることができました。

2日間友達との関わりの中で、友達の大切さやみんなで何かをする楽しさを存分に感じ、たくさんの思い出ができました。

理科専科として

本校は、4年生以上で理科を専科教員が担当しています。理科は子どもたちが好きな教科の1つで、楽しい学習であるとともに危険とも隣合わせです。正しく実験を行わないと事故につながる場合もあるので必ず事前実験をして安全性を確かめています。また、昆虫や植物の観察をするとなるとたくさん必要となるので、計画的に観察に必要な植物を植えて世話をしたり生き物を採取したりしています。また本校は、理科支援員として臺野（だいの）先生にも支援していただいています。

理科は、「どうしてかな（疑問）」「予想は〇〇だと思う。なぜなら・・・だから（予想）」「そうだったのか！（発見）」が面白さだと思います。9月からも、子どもたちの興味関心を引き出す授業を行っていきたいと思います。

（理科専科教諭）